モデル事業名	眠っている地域資源・地域財産を活用した農山漁村の活力再生事業
活動団体名	穴水町移住・定住・交流居住推進協議会
ホームページ	
所属／担当者名	株式会社和倉　穴水店　江尻屋／河原　嘉昭
連絡先	TEL 0768-52-0911　fax 0768-52-0922　E-mail　info@okuichi.net
活動地域	石川県鳳珠郡穴水町　住吉、甲、諸橋、鹿波地区

●　活動地域の概要

（集落・人口・世帯）活動地域は 42 集落あり人口 4,370 人、1,689 世帯である。

（高齢化率）集落の 55 歳以上の占める割合が 50%を超えている集落（準限界集落）37 集落、内 65 歳以上の割合が 50%を超えている集落（限界集落）9 集落、活動地域全体の 65 歳以上の高齢者が占める割合は 35%に及ぶ。

（公共交通）人口の減少により穴水駅以北の鉄道が平成 13 年に輪島線、平成 17 年に能登線が廃止となり、活動地域への交通手段はバス便のみとなった。活動地域では過疎化や高齢化の進行が顕著で、低密度な分散型居住や地理的条件から非効率な運行とならざるをえない状況にある。

なお平成 15 年に能登空港が開港し首都圏とのアクセスは改善され、交流人口拡大に期待を寄せているところである。

（産業・雇用）穴水町における産業は、農林水産業が主であり、特に周辺集落では一次産業従事者がほとんどである。また、食品加工業（家内産業）は後継者不足が問題となっている状況で新たな産業を生み出すには至っていない。

【　位置図　】

【耕作放棄地】

【　空き家　】

●　活動地域の課題

活動地域はいわゆる農山漁村と呼ばれる集落で、高齢化という慢性的問題を抱えており、地域興しに参画する若者がきわめて少なく、コミュニティの中心となる年代が 50 代後半以上の団塊の世代という現状である。高齢化や過疎化が進むにつれ、空き家・耕作放棄地が年々増加傾向にある。また、地域性によるものか定かではないが、全般におっとりした方が多く、積極性に欠ける面がある。

●　活動の内容

・平成２１年度立ち上げに向け

①　「空き家・空き農地バンク」・「空き家・空き農地マップ」の作成

専門または専従の調査員 4 名により、特定された集落の空き家と耕作放棄地の調査を実施し、持ち主、貸し出し・売却の可否、使用制限、面積、農機具貸し出し・人的補助の可否等、具体的に農地や農家を利用する際に必要な情報を整理し、詳細の情報を「空き家・空き農地バンク」に登録し、詳細情報をホームページ等によって公開する。

②　「自然体験活動プログラム」の作成と「農家民泊」の受け入れ調査

専門または専従の調査員 4 名により、特定された 30 集落における自然体験活動のメニューの掘り起こしとプログラムの作成、農家民泊の受け入れ調査を行う。プログラム作成に当たっては受け入れ可能人数、受け入れ時期、所要時間、料金などの詳細について決定するほか、地域住民と協働で地域独自の地域らしい魅力ある体験メニューを作成する。民泊についても、受け入れ民家、受け入れ可能人数、料金等の詳細について決定する。内容は特定の様式にまとめ、①同様、詳細情報をホームページ等によって公開する。

③　「自然体験活動指導者育成講習会」の実施

専門家を招聘し、自然体験活動指導者育成講習会を実施する。実施回数は 2 回で、各回で 25 名程度の指導者を育成し、年間で 50 名程度の指導者を確保する。

● **活動の成果**

・平成２１年度

①　「空き家・空き農地バンク」・「空き家・空き農地マップ」の作成

全体を一斉に調査するには範囲が広すぎる事や、調査手法を確認する目的で、モデル地区として甲地区より調査を開始し甲地区の「空き家・空き農地マップ」調査は完了した。その他の地区は、モデル調査より学んだ事を反映し、地区の中でも利用価値の高い場所、低い場所を机上調査した。使用制限、面積、農機具貸し出し・人的補助の可否等、具体的に農地や農家を利用する際に必要な情報調査は、区長や地域住民と準備を進めている。

②　「自然体験活動プログラム」の作成と「農家民泊」の受け入れ調査

自然体験活動のメニューの掘り起こしは随時進めており、また、体験受入れ先が決まっている民家とは、可能人数・受け入れ時期・所要時間・料金などの詳細について協議を進めている。民泊受け入れ先調査はモデル地区（甲地区）の集会で趣旨説明を行った。２月には各住民へのアンケート調査を予定している。

①　②の公開用ホームページコンテンツ及びホーマットが決定し、調査完了箇所や体験メニューが決定したものから随時公開に向けてページの作り込みを行っている。

③　「自然体験活動指導者育成講習会」の実施

実施日２月 20 日～21 日に開催予定。

　地域内での説明会や現地調査での地域住民との関わりが多くなるにつれ地域内での協力者が増えてきている。
住民の中には、話をすると「こんな事を考えている」「これを生かして何かしたい」「どんどんやってくれ」など積極的な提案を聞く事が多い。皆、何か新たな企画を実行したいがその方策が分からないという状況である。
地域住民は、今回のような新しい取り組みへの興味や関心が非常に高いように感じる。

【甲地区集会での説明状況】

【現地調査に協力頂いている学生】

● **今後の課題及び展望**

・課題

- 空き家・空き農地所有者への、貸し出し交渉は、所有者の死亡・遠方に滞在など交渉先には大変時間と労力を要する。
- 空き農地利用者が、農地（田・畑）を耕作できる状態にし、それを維持するには大変な労力を要する。
- 調査や受入れ準備が整っても頻繁に交流ができないと地域住民のやる気が喪失してしまう恐れがある。
- 移住や交流居住者が集落ごとの風習、祭事に馴染めるか。

・展望

　地域の財産を有効的に活用することで、住民の地域に対する愛着心の向上や、またはコミュニティの活力向上に繋がる。また、自然活動体験者や指導者が地域に入って活動することによってコミュニティの若返りも図れる。また体験者による地域ファンクラブ設立などにより都市部へ帰った後でも、物産品などの定期的な流通と都市部ならではの過疎地支援等を行ってもらうことにより、継続的な都市部との交流のネットワークを構築することが出来る。